News of the forest

岐阜県の森林・林業

森林のたより

ぎふの木フェスタ2018を開催しました

No.779
2018 August
8

FREE
ご自由に お持ちください。

●詳細は3ページをご覧下さい。

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp (公社) 岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（7月～9月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	開催場所 問い合わせ先
7月31日㈫～ 8月30日㈭	**平成29年度 岐阜県緑化運動 ポスターコンクール 入賞作品展示**	平成29年度岐阜県緑化運動ポスターコンクールにおける入賞作品40点を展示します。 ●**入場**：無料 ●**時間**：9：00～21：30	ぎふ清流文化プラザ エントランスホール （岐阜市学園町 3-42） 岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL 058-272-1111（代表）
8月5日㈰～ 8月11日㈯･祝）	**「ぎふ木育WEEK」 山の日フェスタ ぎふ2018& ぎふ木育キャラバン**	8月は「ぎふの山に親しむ月間」です。今年は8月5日～11日までを「ぎふ木育WEEK」とし、ぎふの山や自然を知り、味わい、楽しむ「山の日フェスタぎふ2018」＆「ぎふ木育キャラバン」を開催します。	山の日フェスタぎふ 2018 （アクティブG（岐阜市）） ぎふ木育キャラバン （ぎふ清流文化プラザ（岐阜市）） 岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL 058-272-1111（代表）
8月18日㈯	**森林文化アカデミー オープンキャンパス**	岐阜県立森林文化アカデミーは、林業、森林環境教育、木造建築、木工の分野で活躍できる人材を育成している専修学校です。入学を検討されている方を対象に、オープンキャンパスを開催します。 ●**時間**：10時から16時まで ●**内容**：学校紹介、教員との面談、在学生との交流、入試過去問の配布等 ●**参加費**：無料 ●**事前申込**：必要（ホームページから）	森林文化アカデミー （美濃市曽代 88） 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL　http://www.forest.ac.jp/
9月22日㈯	**狩猟免許試験**	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●**時間**：9：30～17：00 ●**申込**：8/24～9/7 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	岐阜大学 全学共通教育講義棟 （岐阜市柳戸 1-1） 各地域を所管する県事務所、 又は環境企画課 （TEL 058-272-1111 内線 2701）

目次 Contents

イベントカレンダー（一般向け）……2
ぎふの木フェスタ2018を開催しました……3
山の歳時記(156) タマゴタケ……4
100年先の森林づくりシリーズ3
森林技術者増加のための就業支援……5
ぎふ木育WEEK……5
「白山白川郷ホワイトロード」イベント情報……6
ぎふの木を使った家づくり支援制度のご案内
～県外住宅の申請要件を見直しました！～……6
木の香るぎふの施設(66) 小規模多機能ホーム　いちにのさん……7
森林と人を活かす知恵(68) ハイシートから見えるドイツの狩猟事情……8
わがまちの森林・環境行政(20) 七宗町の森林づくり　―本性丸出し、モンシロチョウ―……9
山のおじゃまむし(325) シリーズ：『森林・環境税』で"緑豊かな清流の国ぎふづくり"(3)……10
治山・林道研究課題
～既設谷止工の機能回復について～……11
研究コーナー コンテナ苗は低コスト？(Ⅲ)
―1・5年生ヒノキコンテナ苗の育成と植栽1年目の成長・・―……12
普及コーナー 岐阜地域における普及活動……13
国有林の現場から(23) 県と国有林との連携について……14
林野庁中部森林管理局森林技術・支援センター
魚つき保安林の指定……16
林業者向けお知らせ……17
市況……17

岐阜県の森林・林業
News of the forest
森林のたより
No.779
2018 August
8

表紙●ぎふの木フェスタ2018を開催

ぎふの木フェスタ2018を開催しました

6月9日(土)・10日(日)岐阜メモリアルセンター(岐阜市)の「芝生広場」において、第2回目となる「ぎふの木フェスタ2018」を開催しました。梅雨時期であり天候が心配されましたが、両日合わせて2万1千人もの方々にご来場いただきました。

会場内には、木のおもちゃで存分に遊んでいただける「木のおもちゃ広場」や「赤ちゃん木育広場」、岐阜県産のヒノキで製作された「子どもアスレチック」や「巨大迷路」、さらには「ウッドチップ広場」や「木のジャングルジム」などが登場し、それぞれ多くの親子連れで賑わいを見せていました。

また、出展ブースでは、県内の各企業や団体などによる多彩な体験・展示・販売ブースが大集合し、各ブースとも多くの来場者で溢れていました。

加えて、ステージ上では、1日目には県内の子どもたちによる「チアダンスパフォーマンス」や「大道芸ショー」、子どもたちに大人気の「アンパンマンショー」が、2日目には、地元の子どもたちによる「早田太鼓の演奏」や「マジックショー」、「アルプホルンの演奏」、さらには迫力ある「チェーンソーアートの実演」などが行われ、会場を大いに盛り上げました。

両日に渡り、多くの方々に丸ごと1日「ぎふの木」を満喫していただき、木の良さや木を使うことの大切さを実感していただけたものと思います。

最後に、開催にあたり、ステージイベントにご出演いただいた方々、また各ブースの出展者、そして、御協力・御協賛をいただいた各団体の関係者の皆様に、改めて御礼申し上げます。

アルプホルン演奏

チェーンソーアート

赤ちゃん木育広場

早田太鼓

木のおもちゃ広場

チアダンス

巨大迷路

子どもアスレチック

木のジャングルジム

ウッドチップ広場

山の歳時記 156
YAMA NO SAIJIKI

タマゴタケ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

夏の山で見られるタマゴタケやヤマドリタケモドキ、キノコの季節には早いようにも思われますが、これらは代表的な食用キノコです。

特に、テングタケ科テングタケ属のテングタケ亜属に分類されるタマゴタケ（Amanita caesareoides）は、外見が毒キノコで有名なベニテングタケに似ているため、食べるのをためらうキノコでもあります。

タマゴタケは北海道から九州まで広く分布し、ナラ類やカンバ類の生えた広葉樹林、モミなどのマツ科の針葉樹と広葉樹の混交林などで、夏から秋にかけて子実体を発生させます。樹木の細根に外生菌根を形成して共生し、地域によっては梅雨明け頃の初夏と初秋の2回発生することもあります。

タマゴタケの名前は、長野の信州地方で古くから食用として利用していた呼び名とされます。名が示すように、最初の内は卵型の白く厚い外被膜に包み込まれており、子実体の成長とともに頂部が裂開して、傘と柄が伸び始め、外被膜は深いコップ状の壺として柄の基部に残ります。傘は直径4～15㎝で、深赤色～橙赤色を呈し、周縁部には明瞭な放射状の条線があるのが特徴です。

ベニテングタケとの最大の見分けポイントは中空の柄の色で、長さ6～18㎝、太さ8～15㎜の柄が淡黄色～淡橙黄色の地に帯褐赤色のだんだら模様になることです。ただし亜高山帯の針葉樹林では、この模様の無い個体も発生します。

おいしいキノコとして有名ですが、発生時期がまだ暑い時期であることと、キノコ自体が壊れやすいため、なかなか流通に乗りません。茹でると煮汁に黄色い色素が出てしまうので、炊き込みご飯やオムレツとして食べるのがいいかもしれません。なんでもこの黄色い色素がうま味成分らしいので、生で食べるとか、焼いて食べるのがお薦めです。

セイヨウタマゴタケ（Amanita caesarea）は、欧州で「カエサルのキノコ（Caesar's Mushroom）」と呼ばれ珍重されます。またフランスではオロンジュ（Oronge）、イタリアではオーヴォリ（Ovoli）という名前でも親しまれ、幼菌を生でサラダやマリネとして食されます。

私もタマゴタケの幼菌（卵状のもの）を生で食べたことがありますが、薄くスライスしたものはオリーブオイルともよく合い、癖が無く、コリコリ、サクサクとした食感を楽しめます。

しかし野生キノコを食べるのは、危険も多く伴います。毒キノコと間違うだけでなく、福島第一原子力発電所事故以降では、宮城県や群馬県、山梨県で採取されたタマゴタケから規制値の100ベクレル／kg近い放射性セシウムが検出されたこともあるので、注意してください。

▲タマゴタケの幼菌

100年先の森林づくりシリーズ 3

第３期岐阜県森林づくり基本計画(H29～H33)では、望ましい森林の姿へ配置転換する「１００年先の森林づくり」、林業経営を重視した「生きた森林づくり」、環境保全を重視した「恵みの森林づくり」に取り組んでいます。これらの取組状況について、隔月連載でご紹介します。

１００年の森林づくり計画人材育成・技術開発プロジェクト

森林技術者増加のための就業支援

昨年度は、岐阜市で開催された「アグリチャレンジフェア」をはじめ、東京、大阪、名古屋で開催された「森林の仕事ガイダンス」等の就業相談会に8回参加し、県内及びＩターン・Ｕターンを検討している求職者に林業の魅力をＰＲしました。また、女性の活躍を促進するため、女性森林技術者を積極的に活用している山梨県の林業事業体の調査を実施し、林業事業体の経営者等（参加者22名）を対象とした報告会において、女性森林技術者の活躍ぶりを紹介しました。

このほか、農林高校生を対象とした林業体験活動を実施して、243名の生徒が伐採・加工・販売等の現場見学を行い、林業に関する理解を深めるとともに、さらに一歩踏み込んだ山しごとインターンシップ事業には13名の高校生が参加し、現場作業を含めた職場体験を行いました。

今年度は、４月に開所した「森のジョブステーションぎふ」と連携を密にして、森林所有者増加のための様々な就業支援活動を行ってまいります。

山しごとインターンシップ（郡上市）

森林の仕事ガイダンス（名古屋市）

１００年の森林づくり計画 人材育成・技術開発プロジェクト

「１００年の森林づくり計画（森林配置計画）」を実践するため、地域の森林づくりを支える専門人材の育成や、育林技術システムの開発、育林技術システムに係る人材の育成を進めるとともに、森林技術者の量的・質的な改善を図るプロジェクトです。

【恵みの森づくり推進課　饗場 昌彦】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8473 恵みの森づくり推進課まで

ぎふ木育WEEK

入場無料

8月5日(日)～11日(祝・土)

県では、8月の「ぎふの山に親しむ月間」に合わせて、木の国・山の国県民運動の中心的な行事として、ぎふの山・森の恵みを使ったワークショップや音楽会などを行う「山の日フェスタぎふ2018」や、木のおもちゃに触れて五感で楽しむ「ぎふ木育キャラバン」を開催します。

山の日フェスタぎふ2018

日　時　8月5日(日)午前10時～午後4時

会　場　JR岐阜駅 アクティブG
2Fふれあい広場、3F ART LIVING
岐阜市橋本町1－10－1

内　容　木工教室、木のストラップづくり、
クラフト、松ぼっくり工作、木製品販売、
ぎふの木おもちゃ広場、
パネル展示（5日～9日まで）

森のジョブステーションぎふによる林業の就業相談もあるよ！

ぎふ木育キャラバン

日　時　8月10日(金)～11日(祝・土)
午前10時～午後4時

会　場　ぎふ清流文化プラザ2F 長良川ホール・ホワイエ
岐阜市学園町3－42

内　容　ぎふ木育キャラバン
ぎふの木のおもちゃ展示、クイズラリー

岐阜に「東京おもちゃ美術館」がやってくる！！

主催：岐阜県、（公社）岐阜県山林協会、（公社）岐阜県緑化推進委員会、岐阜県森林組合連合会、岐阜県木材協同組合連合会
共催：ぎふグッド・トイ委員会、NPO法人岐阜県木育推進協議会、NPO法人グッドライフサポートセンター

問い合わせ先：恵みの森づくり推進課　井田または河合　　TEL 058-272-8821　FAX 058-278-2702　E-mail c11513@pref.gifu.lg.jp

「白山白川郷ホワイトロード」イベント情報

白川村と石川県白山市を結ぶ山岳有料道路「白山白川郷ホワイトロード」は、6月15日（金）に全線開通しました。
ここでは、「白山白川郷ホワイトロード」の8月以降のイベントをご紹介します。
限られた期間しか見ることのできない大自然がここにあります。ぜひ、お越しください。

◆イベントカレンダー

月	日	行事名	内容
8	12㈰、19㈰、26㈰	星空観察・ご来光ツアー	満点の星空と三方岩岳でご来光を望むツアー
	26㈰	第3回「あなたに贈る大自然と音楽」（残暑ミュージック）	夏の終わりのハーモニーをあなたに
9	9㈰	白山白川郷ウルトラマラソン　※午前中通行止め	白川郷からホワイトロードを駆け抜け、日本海へと走るマラソン
	22㈯～10/21㈰	秋のモーニングタイム	通常より1時間早くホワイトロードに入場し、ゆっくりと紅葉を楽しむ 雲海や霧虹、滝雲などの幻想的な風景が見られるかも
	30㈰	第4回「あなたに贈る大自然と音楽」 （紅葉オープニングミュージック）	これからの紅葉と雲海を前に音楽をどうぞ
10	1㈪～31㈬	おもてなしキャンペーン（白川郷展望台駐車場）	様々なお店が日替わりで、美味しい食べ物＆かわいい雑貨とお土産品で皆様をおもてなし
	20㈯～21㈰ 27㈯～28㈰	錦秋の三方岩岳トレッキング	紅葉の中、三方岩岳までトレッキング
	28㈰	第5回「あなたに贈る大自然と音楽」（色彩ミュージック）	紅葉と音楽を一緒に楽しむ、今年最後の音楽祭
通年	開通期間中	温泉に泊まって片道無料キャンペーン	石川県の加賀、白山、辰口、金沢温泉郷の対象宿泊施設を利用すると、ホワイトロードが片道無料になるキャンペーン

お問い合わせ先　白山林道岐阜管理事務所　TEL/FAX 05769-6-1664
http://hs-whiteroad.jp/

【治山課　増田 龍太】

ぎふの木を使った家づくり支援制度のご案内
～県外住宅の申請要件を見直しました!～

岐阜県では、安心・安全な家づくりに県産材を積極的に利用していただくため、岐阜県内だけでなく県外に県産材住宅を新築する施主にも助成を行っています。平成30年度から、募集棟数を拡大するとともに、より利用しやすい制度とするため、県産材使用要件や県産材住宅PR方法等の見直しを行いました。

詳しくは、県のホームページに、応募状況、申し込み条件、必要書類等を掲載していますので、ご確認下さい。

■ぎふの木で家づくり支援事業（県外新築タイプ）概要紹介

助成額	20万円
補助対象	以下の要件を満たす住宅の施主 ●自らまたは家族が居住するための住宅であること ●平成30年2月1日～平成31年2月末日までに工事完了すること ●県産材住宅のＰＲを実施すること ●県産材使用要件を満たすこと（下記参照）　他
県産材使用要件	下記のいずれかの要件を満たすこと ●「ぎふ性能表示材」を構造材に80%以上かつ、横架材に6㎥以上使用すること ●「ぎふ性能表示材」を構造材に80%以上かつ、横架材に4㎥以上使用し、「ぎふ証明材」または「ぎふ性能表示材」を内装材に20㎥以上使用すること
申請先	岐阜県庁林政部県産材流通課
申請期間	平成30年4月10日（火）～平成31年2月28日（木） ※工事完了から60日以内に申請して下さい。 ※申請枠登録は、平成30年8月31日（金）まで

●平成30年度からの変更点

- 県産材住宅ＰＲ方法に、「ＨＰやＳＮＳを活用した広報」を追加しました。ＳＮＳの場合、「#ぎふの木の家」を付けて投稿してください。
  ※従来どおり、見学会（構造見学会または完成見学会）も可能です。
- 都市部の住宅に対応した県産材使用要件を追加しました。
  ※県外新築タイプのみ
- 上棟14日前の申請から、工事完了後60日以内の申請になりました。
  また、建築確認完了～工事完了までの間に、申請枠登録（事前予約）ができるようになりました。
- ※平成30年度4月当初の工事完了期限および申請期間を、**1月末→2月末**へ変更しました。

【県産材流通課　山田 純司】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8487 県産材流通課　消費対策係まで　ぎふの木で家づくり　検索

木の香るぎふの施設 66

内装木質化

小規模多機能ホーム　いちにのさん

瑞浪市陶町猿爪２４番地の２

小規模多機能ホーム　いちにのさんの　全景

施設概要

事業年度	平成29年度（繰）
事業主体	特定非営利活動法人　陶宅老所いちにのさん
構造・延床面積	一部２階建 454㎡（内装木質化対象床面積247㎡）
施設用途	小規模多機能型居宅介護
木材使用量 使用樹種	5.49㎥（内装木質化部分） 主要樹種：スギ
全体事業費	135,000千円（建築工事費）
助 成 額	2,470千円（木の香る快適な公共施設等整備事業）
設 計 者	株式会社丹羽英二建築事務所
施工業者	板垣建設株式会社
工　　期	平成29年10月～平成30年3月

居室の状況

施設の経緯

陶宅老所は、平成10年に陶町猿爪地内に通所介護施設とし開所し、平成23年に現在の場所に移設しました。

従来から利用者、近所にお住いの方々から、宿泊できる施設の開設の要望が強く、念願の地域密着型の「小規模多機能ホームいちにのさん」が平成30年3月に開所しました。

当施設は木の香りに包まれて一日をゆったり過ごせる地域の拠点になっています。

高齢者の願う在宅を中心とした生活を、通所介護、宿泊介護等、様々な形で支えてゆくことができる施設となっています。

居間・食堂・機能訓練室の状況

ここに注目!!

- 居間・食堂・機能訓練室の広々とした空間の床板、腰板に木材を使い、木に触れ、心が和らぐ空間となっています。

利用者の様子

- 床や腰板に木がたくさん使われており、五感を通じて木の温かみを感じることができ、リラックスできるとの声を頂いています。

■問い合わせ先
特定非営利活動法人　陶宅老所（すえたくろうしょ）いちにのさん
TEL 0572−65−2488

ハイシートから見えるドイツの狩猟事情

岐阜県立森林文化アカデミー　教授●伊佐治 彰祥

●ハイシートってなに？

ここで言うハイシートとは、直訳すると高い座席、猟場で獲物を待ち伏せするための狩猟台のことです。このハイシート、ドイツの狩猟シーンに必ず登場するといってよく、ドイツでは郊外の耕地や森林のいたるところで見かけることができます。テニスの審判台のような小さなものから、高さが５mを超す櫓に物置を載せたような大がかりなものまで、様々なハイシートが作られています。

ロッテンブルグ林業大学の演習林に設置されたハイシート。演習林には71基のハイシートが設置され、捕獲効率や使用状況等のデーターがGISを使い管理集積されている。

ドイツでは、国土の約９割に猟区が設定されており、猟区の狩猟権を持つ者が猟場を占有して狩猟することができるそうです。そのような状況があるため、猟区の狩猟権者は、自分たちの狩猟がしやすいように猟場の整備を行うこともでき、ハイシートの設置もその一つというわけです。

日本にも猟区は有りますが、制度が異なり、その数も全国で十数カ所とわずかで、猟場を占有するケースは少なく、また、通常の狩猟では、他人の土地に立ち入ることもあるため、ハイシートのような施設の設置や、狩猟目的の環境整備は一般的ではありません。

これを魚釣りに例えれば、ハイシートを使うドイツの狩猟は、施設が整った管理釣り場の釣り、日本の狩猟は、自然河川での釣りといった感じになるのでしょう。

●ハイシートでの狩猟とは？

ところで、ハイシートを使った狩猟とはどのようなものなのでしょう？アカデミーが交流するロッテンブルグ林業大学の先生に話を伺うと「獲物が動き始める夜明け前に、足音を忍ばせこっそりとハイシートに入り、寒さに震えながら息をひそめて待機する。やがて夜が明け、獲物が寄せ餌に誘われ出てきたり、巻き狩りの場合は、勢子に追われ逃げてきたところを見逃さず射撃する。」のだそうです。

猟の前には、射撃の射界を妨げる樹木の除伐や剪定、寄せ餌の設置など事前の準備が欠かせず、時にはハイシートへ移動する時の足音を抑えるため通路の落葉を掻くこともあるのだとか。こうした仕事は、まだ狩猟免許を持っていない新入生の仕事になっているようです。

また、ロッテンブルグ林業大学演習林のように多数のハイシートが設置されている場合は、風向き、寄せ餌の食べられ方、過去の捕獲傾向等から獲物の動きを予想し、自分が入るハイシートを選ぶ必要があるとのことで、この判断の良し悪しが猟果に大きく影響するようです。

そこまで準備して狩猟に臨むのなら、よほど獲物との出会いがあるのかと思いきや、さにあらず、演習林での猟では、５回の出猟で、せいぜいチャンスが１回ある程度とのこと。寒中、長時間待ったあげく、待ちぼうけとなったり、身じろぎの音ひとつで気付かれて逃げられることも少なくないそうです。狩猟の盛んなドイツだけに獲物の警戒心も強いのでしょう。なかなかの忍耐力を必要とする猟法のようです。

●ハイシートを作ってみた

昨年十一月、日独林業シンポジウムに合わせ、学生達とハイシートを作ってみました。

ここで参考にしたのは、ドイツで市販されているハイシート作りのマニュアル本です。この本では、ハイシートのタイプごとに、材料寸法や組み立て方、木材腐朽対策など実に事細かに解説されています。ハイシートのためだけにこれだけのマニュアル本があることに驚きますが、過去に、誤った作り方や管理不足が原因で、倒壊事故が多発し、こうしたマニュアル本が作られるようになったとのことです。

今回使った材料は、演習林産ヒノキ・スギから製材した角・板材とコーチボルト、ネジ釘、ポリカ波板など。工期は延べ３日、人員は、建て起こしの時以外は、２人いれば十分です。作業は特に問題なく進み、出来栄えも満足できるものになりました。床面の高さはわずか２m程ですが、ハイシートからの眺めは、なかなかのものです。

●ハイシートは、日本で使えるか？

ハイシートは、ドイツの狩猟環境を背景に発達したものだけに、日本の一般的な狩猟シーンにそのまま当てはめるのは難しいかもしれません。

しかし、植林地のシカ害に悩まされている事業体さんによる、自力の被害対策やハンターを奥山の事業地に招き入れるための環境整備等にも活用できるような気がします。ひょっとしたら日本の猟区にも設置されるかもしれません。狩猟以外では、野生動物の観察台や遊泳場の監視台として、また、制作自体を環境教育プログラムにするなど、「ドイツのハイシート」と冠を付けることで、思わぬ使い道も生まれそうです。ちなみに、アカデミーで作ったハイシートは、森のようちえんの遊具となっています。

このハイシート、気になる方は、是非アカデミーにお越しの際、実物をご覧になってください。

組み立てが終わったところで、設置場所に移動し、建て起こします。この時ばかりは、人手が必要。屋根や梯子は、後からボルトで取り付けます。

ウッドデッキを型紙に使い、採材、組み立てをしていきます。工具は、電動ドリル、丸鋸、一部にチェンソーを使用しました。後ろに見えるのは、1/3スケールの模型。

●詳しい内容を知りたい方は　TEL（0575）35-2525 県立森林文化アカデミー まで

山のおじゃまむし

ー 本性丸出し、モンシロチョウ ー【第325回】

自然学総合研究所　野平 照雄 ● *Teruo Nohira*

5月某日。「お爺ちゃん、お願い。蝶々の卵か幼虫を採ってきて」と孫のY君。小学3年生だ。授業の時、先生から「チョウの卵か幼虫を探して、見つけた人は持ってくるように」と言われたからだという。可愛い孫からの頼みだ。喜んで引き受けた。すぐにモンシロチョウだと思った。この蝶なら簡単に採れるからだ。しかし、多くの生徒が持ってくるだろう。これではY君が目立たない。他にいないか考えた。ギフチョウが浮かんだ。ちょうど今が幼虫の時期だ。これだったら簡単に探せないので、誰も持ってこないだろ。間違いなく先生からほめられるだろう。Y君の喜ぶ顔が目に浮かんだ。孫のこととなると、こうまで考えてしまう自分。まさに孫馬鹿だと笑えてきた。しかし、ギフチョウは国や県のレッドデータブックに指定されている昆虫である。採集を禁止している場所もあるくらいだ。その貴重な蝶を小学生の教材にする必要があるのだろうか。迷ったあげく、止めることにした。では何がいるか。アゲハチョウとキアゲハが浮かんできた。特に、アゲハチョウは数年前に近くのカラタチの葉に幼虫が何匹もいたので、写真撮影したことがある。早速、その場所へ出かけた。ところがすぐに頓挫。カラタチが切られてなくなっていたのである。最初からこれではと悪い予感がした。

×　×　×　×

アゲハチョウの幼虫はミカンの葉も食べるので、これを狙うことにした。幸い、ミカンの木はあちこちでよく見かける。ところが、ここでも壁に突き当たる。ミカンがあるのは人家の庭。無断で入れないので、探すのは道路へ出ている枝に着いている葉だけ。しかも、ほとんどが2m以上の高木。それでもあちこちのミカンを必死に探した。やはり、採れなかった。自称「虫とり名人」の自尊心に傷がついたようで悔しかった。これは、探したミカンにはいなかったのだ。こんな屁理屈と言うか負け惜しみを自分自身に言い聞かせた。とは言うものの、一方では高齢による視力の低下。これが原因だとも思った。若い頃は視力、それも動体視力が自慢。高い木の枝先に付いている小さなゾウムシを見つけ、それを捕虫網で掬って採ったことが何回もある。それが今は遠くのものは見えず、近くのものは老眼鏡をかけたり、はずしたりして探さなければならない。これが面倒くさい。そのうちに諦めてしまう。今回もこのパターンで、早々にアゲハチョウは諦めてキアゲハを探すことにした。

×　×　×　×

キアゲハの幼虫はニンジンの葉を食べる。そのニンジン畑は私の住んでいる各務原市にたくさんある。県下でも有数の生産地だからである。この幼虫だったら簡単に採れるだろうと思った。ところが、これもそうではなかった。どのニンジン畑も広大できれいに除草され、周囲は金網やロープで囲ってある。ここへ無断で入って、幼虫を探すのは気が引けた。ニンジン泥棒と思われるからだ。それでも、Y君のためだと、無断侵入して探し始めた。しかし、周囲が気になる。通る人は疑惑の目で見ているようで、集中して探すことができなかった。これでは駄目だ。30分ほどで止めてしまった。この後、別の場所でもニンジン畑を探した。しかし、どの畑も手入れが行き届いている。結局、キアゲハも諦めてしまった。

×　×　×　×

あとはモンシロチョウだ。これは気が向かなかったが、仕方なしにこれを探すことにした。これはキャベツを探せば簡単に採れるはずだ。ところがキャベツもニンジン畑と同じように手入れされ、周囲は柵。これも駄目だと、諦めかけた。ところが柵の外から手の届くところに葉が開いている大きなキャベツがあった。それに目を近づけた。胸が熱くなった。大きな幼虫が1匹いたのである。「おった!」。

▲キャベツを食べている幼虫

こうなると虫採り本性丸出し。後のことは考えず、柵を越えて無断侵入。必死になって幼虫を探した。あっという間に10匹採れた。嬉しかった。これでY君との約束が果たせたと気が楽になった。考えれば長い虫採り人生で、モンシロチョウを採って大喜びするのは初めてであった。そんな自分に思わず笑えてきた。翌日、Y君はこの幼虫を持って学校へ行った。ところがその日に持ち帰ってきた。意外だった。学校で飼育して観察するものと思っていたからである。Y君の話しでは、蝶を持ってきたのは3人ですべてモンシロチョウだった。先生はそれを生徒に見せて「これがモンシロチョウの幼虫です」と説明しただけだという。私は愕然とした。ギフチョウを探さなくてよかったと思った。同時に、マニアしか解らないような幼虫を持たせたら、どのような説明をされたのか。こんな意地悪なことも思った。そのモンシロチョウの幼虫はY君が家で飼育し始めた。キャベツを毎日与え、絵を描いたりしている。数日後「お爺ちゃん、6匹蛹になったよ」と知らせに来た。嬉しそうだった。そして「蝶にはいつなるの」。「10日くらい後かな」。Y君と話していると、なぜか心がなごんでくる。

わがまちの森林・環境行政 20

七宗町の森林づくり

七宗町の森林整備について紹介します。

七宗町の概要

岐阜県の中南部に位置する七宗町は、総面積9,047haで、そのうち山林の面積が8,281haと山林の割合が、約92％を占めている平地が極めて少なく山林の多い町です。そのため古くから森林との関わりが深く、盛んに森林施業や木材の生産を行ってきました。しかし昨今では、木材の需要が低下した事により林業を生業としている人々が減少してしまったため、荒廃した山林が町内でも多く見受けられます。そういった山林を整備していくため、山林の路網整備に重点を置き、山奥にある森林資源を有効的に利用する活動を行っています。

▲平成６年に撮影された町内の森林施業の様子。

民・国連携による森林整備の推進について

平成27年度からはじまった本事業は、民有林と国有林の関係者が連携・協力して効率的かつ効果的な路網整備や間伐等の森林整備に取り組む事により、木材生産性の向上、林業事業体の育成・強化、木材の安定供給等を目的とした事業です。

森林共同施業団地にて森林施業を行う際に、実施箇所および時期について担当者間で調整を行うことで施業の集約化を進めており、路網整備と同時に高性能林業機械で森林整備を行うことで低コスト施業を目指すなど、地域に応じた多様な作業システムを構築できるように進めています。

また平成28年度より森林共同施業団地をケーススタディ地区に設定し、民国有林ともに連携して、様々な事例研究に取り組んでいます。その中でも昨今では、ニホンジカの個体数の増加に伴う食害が民国有林内でも多く発生しており、木材の生産性及び品質の低下が懸念されています。鹿による食害を防ぐために、国と町で連携して個体数調整や防護ネットの活用といった対策法を検討しています。今後ともこれらの研究成果を基に、七宗町の森林整備計画や地域林業の施策に反映していくことで、地域の実情に合わせた森林整備の確立に努めていきます。

▲上麻生民国連携団地におけるタワーヤーダー操作研修の様子。

▲国有林内におけるニホンジカ対策についての成果発表。

森林整備体制の強化

七宗町の森林整備の状況としては、現在５つの経営計画を作成しており、森林組合が主体となって森林経営計画内における路網整備や間伐事業などの森林整備を積極的に行っています。

平成29年度の実績としては、県補助金事業を活用し、路網整備として総延長8,433mの作業道の開設を行い、間伐事業としてⅠ期～Ⅲ期にかけて38・75haの間伐を行いました。町は県補助金に対して、作業道開設に対して90％以内、間伐事業に対しては95％以内までの嵩上げを行い森林整備に対しての助成を行っています。

林地残材の活用

七宗町では「清流の国ぎふ地域活動支援事業」を活用し「可茂南部100年の森林づくりプロジェクト【エコ薪】でCO_2削減せよ！」と題して、林地残材を有効的に活用するための市民参加型活動を行っています。

平成29年度に行われた内容としては、10月31日から11月3日までの間に、町内・町外合わせて66名が参加し、森林組合が搬出間伐を終えた後の作業道にある林地残材を積み込み、土場にて薪割機８台を使用して薪をつくり、その後タガ詰めを行いました。

参加者には森林・環境税について、どのように活用されているのかを全く知らなかった方もおり、「口コミやチラシを見て興味を持ち参加した。今後も参加したい。」との声をいただくことができました。

本活動は森林へ関心を持っていただくきっかけづくりとして、また森林・環境税の活用に対するＰＲの場として今後とも継続していくべき活動であると考えています。

▲薪のタガ詰めの様子を熱心に見つめる子供。

【七宗町役場　農林課　松山 尚永】

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0574-48-1101
七宗町役場農林課まで

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

3

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

里山林整備事業　～集落、農地等周辺の里山林整備を支援する事業です～

◆事業実績

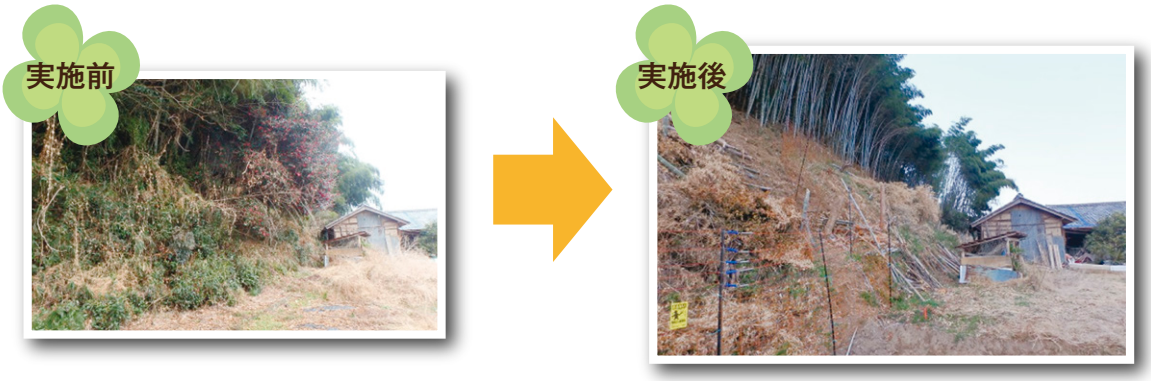
県では野生鳥獣による被害の軽減など地域住民の生活環境の保全や、生物多様性の保全を図るため、市町村や各種団体が行う里山林整備の経費を補助しています。平成29年度は、25の市町村において、約317.91haの里山林整備が進みました。

◆平成29年度の事業実績一覧

事業種別	事業量	事業費（円）	森林・環境税（円）
森林病害虫の防除	172.55㎥	2,587,865	2,047,400
修景等の環境保全	5.16ha	624,800	624,800
不用木の除去	242.99ha	50,435,286	48,231,528
危険木の除去	19.39ha	113,327,656	111,705,406
バッファーゾーンの整備	50.37ha	36,241,612	34,846,708
森林地域外危険木の除去	2箇所	1,359,000	686,000
既存施設の改修	8箇所	28,909,910	23,487,710
計	森林整備　317.91ha 森林地域外危険木の除去　2箇所 施設改修等　8箇所	233,486,129	221,629,552

◆整備例

関市内



七宗町内

【恵みの森づくり推進課　富本　守】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8472 清流の国ぎふ森林・環境税活用サポート窓口 まで

治山・林道研究課題

～既設谷止工の機能回復について～

郡上農林事務所森林保全課　岡本 大輝

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。今年2月に行われた発表会で発表された研究課題を紹介します。

はじめに

平成26年8月に「インフラ長寿命化計画（行動計画）」が策定され、それに基づき岐阜県でも治山施設点検が行われています。そのなかで郡上農林事務所管内において平成28年度に既設谷止工の破損を発見しました。既設谷止工の破損に対して対策工法を検討しましたので紹介します。

既設状況

既設谷止工の現況として写真のとおり谷止工のほぼ中央に大きなクラックが生じており、右・左に2分割されています。また下流側に約20度程前倒し状態で傾いていました。

原因の推定

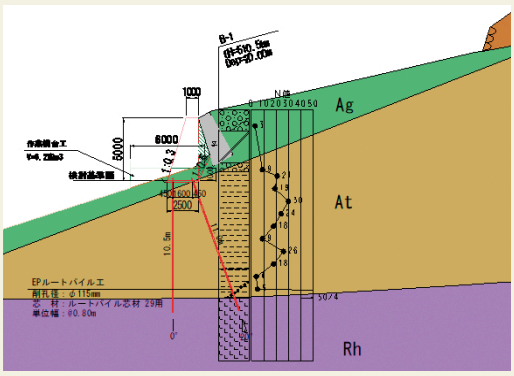
既設谷止工倒壊の原因を調査するため、ボーリング調査、地質調査を行いました。その結果、既設谷止工上流部の堆積土砂は安定しており、周辺のスギに大きな根曲がりが見られないことから、大規模な滑りを生じている可能性は低いと考えられました。既設谷止工が倒壊した原因は、支持力が十分でない地盤の上に谷止工を設置したため、土圧や水圧により谷止工背面に大きな鉛直荷重がかかり、基礎地盤が鉛直荷重に耐えきれず、前方向に傾いたと考えられます。

対策工法の検討

既設の変状原因が基礎地盤の支持力不足であることを踏まえ、既設の機能維持を図る対策として次の3案について比較検討をしました。

①グランドアンカー工法により、変状した既設谷止工の支持力を補完する工法。
②擁壁工を新設して既設谷止工を含む背面からの作用荷重を支える工法。
③変状した既設谷止工の基礎地盤を支持層まで地盤改良し、必要反力度を支持層に伝達させることで安定化を図る工法。

工法比較の結果、対策工法は3案中最も安価であり、周辺の地形改変が小さく、施設の安全性が高い③を採択しました。



まとめ

今回紹介した工事は今年度の県単治山工事にて現在施工を行っており、平成30年度内に完成の予定です。今後治山施設点検を進めていくにあたり、様々な破損等が出てきた場合、各箇所に応じて適切な工法による修繕を進めていきます。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0585-67-1111（代）
郡上農林事務所森林保全課まで

コンテナ苗は低コスト？(Ⅲ)
―1・5年生ヒノキコンテナ苗の育成と植栽1年目の成長・・・―

森林研究所●茂木 靖和

これまで本誌731号と755号において、コンテナ苗による低コスト再造林を実現するには、苗自身の低コスト化と植栽後の苗成長を高める必要があることを指摘してきました。育苗期間の短縮は、潅水などの育苗にかかる手間を大幅に削減することから、苗自身の低コスト化にうってつけの方法です。

そこで、種をまく時期を春から秋に遅らせても翌々年の春に山出しできる1・5年生ヒノキコンテナ苗を育成できないか検討しました。

1. 育苗条件と育成状況

培地には、ヤシ殻7L、籾殻3L、燻炭0・3Lに、元肥（成分N16P5K10、溶出日数700日）を100、200、400、800g／10Lの割合で混入したものを用い、それぞれの得苗率と苗サイズ（樹高、根元直径）を調査しました。得苗の基準には、岐阜県のヒノキコンテナ苗の規格（根鉢形成有（図1）で、かつ樹高25㎝以上）を採用しました。

得苗率は、元肥量によって大きく異なりました（表1）。元肥量が400g／10Lの時には、85％の高い得苗率が得られました。この値は、同一元肥量の培地条件で育成した2年生ヒノキコンテナ苗を含めて、最も高い得苗率でした。

図1　根鉢形成の有無

元肥量 (g/10L)	得苗率 (%)	苗サイズの平均値	
		樹高 (㎝)	根元直径 (㎜)
100	15	17.6	未測定
200	45	26.1	2.7
400	85	40.2	3.9
800	60	38.4	4.1

表1　育苗終了時の得苗率と苗サイズ

苗サイズ（樹高、根元直径）には、100g／10L＜200g／10L＜400g／10L＝800g／10Lの関係がみられました（表1）。元肥量を多くしても、苗サイズが大きくなる施肥量には、上限がありそうです。

2. 植栽1年目の苗成長と生存率

得苗率が低かった100g／10Lの元肥量で育成したものを除く規格を満たした1・5年生ヒノキコンテナ苗を、下呂市内のヒノキ皆伐跡地（標高640m、土壌型B_D（d）、平均傾斜33度）へ植栽しました。植栽直後の2017年4月と植栽1年目期末（2017年12月）に苗サイズ（樹高、根元直径）と生死の調査を行い、植栽1年目の苗成長量（植栽1年目期末の苗サイズと植栽直後の苗サイズの差）と生存率（植栽1年目苗生存数／植栽本数×100）を算出して、元肥量の影響を解析しました。

植栽1年目の1・5年生ヒノキコンテナ苗の樹高成長量、根元直径成長量、生存率は、元肥量による差が認められませんでした（表2）。その一方で、同一元肥量の培地条件で育成し、同一個所に植栽した2年生ヒノキコンテナ苗より樹高成長量が4～10㎝程度大きく、根元直径成長量や生存率に違いがみられませんでした。種をまく時期を遅らせることには、育苗コストの削減に加えて、植栽後の苗成長を高める効果もありそうです。

元肥量 (g/10L)	生存率 (%)	苗成長量の平均値	
		樹高 (㎝)	根元直径 (㎜)
200	80	36.5	6.3
400	85	38.7	7.1
800	85	38.8	6.9

表2　植栽1年目の生存率と苗成長量

まとめ

植栽1年目の1・5年生ヒノキコンテナ苗は、成長や生存率で2年生ヒノキコンテナ苗に劣りませんでした。また、元肥量400g／10Lで育成した1・5年生ヒノキコンテナ苗は、極めて高い得苗率でした。したがって、育苗期間を2年から1・5年へ短縮しても、元肥量の調整により2年生ヒノキコンテナ苗の品質と同等の苗を効率的に育成できると考えられます。今後は、さらに育苗期間を短縮した「1年生苗の開発」に取り組み、「コンテナ苗は低コスト！」を実現させたいと考えています。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

岐阜地域における普及活動

■岐阜農林事務所　増田　学

岐阜農林事務所管内（岐阜地域）は、岐阜県の南部に位置し、６市３町の９市町からなる地域で、森林を有するのは、岐阜市、各務原市、山県市、本巣市です。森林面積は、約59千ヘクタールで、そのうち約９割にあたる53千ヘクタールが民有林です。

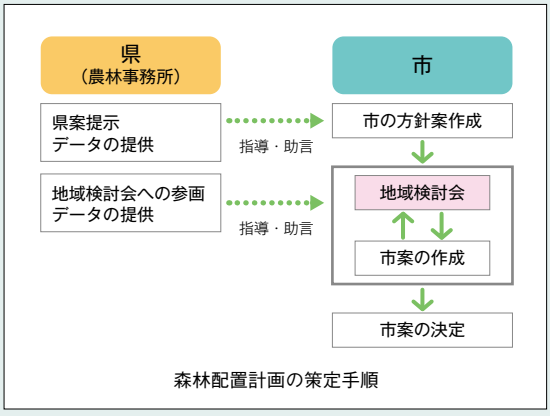
今回は、平成29年度から岐阜県で進めている「１００年先の森林づくり」の取組等に係る岐阜地域の普及活動の事例を紹介します。

１００年先の森林づくり計画（森林配置計画）の策定支援

岐阜県では、民有林人工林の齢級構成が８齢級から12齢級に偏っていることや、拡大造林時代に造林不適地まで植栽された人工林が存在していることなどから、主伐と再造林による森林の若返りの推進や木材生産に適した場所の絞り込みと手入れ不足の解消などに向けて長期的な視野のもと、将来の望ましい森林の姿を設定した１００年の森林づくり計画（森林配置計画）を市町村と連携を図りながら策定しています。

森林配置計画とは、大まかなエリア（林班等）ごとに、長期的な視点と現状を踏まえて将来の望ましい森林の姿を示したものです。策定にあたっては、林業経営に適した「木材生産林」と水源地など保全要素の強い「環境保全林」を基本区分とし、これに重複する形で、観光道路沿いの景観価値の高い「観光景観林」、集落等に隣接し生活と密接に関わる「生活保全林」の４つの区分を設定します。

森林を有する岐阜市、各務原市、山県市、本巣市の森林配置計画策定に当たって、将来目標区分の設定基準の検討・助言、現地調査、地域検討会への参画・支援等を行いました。



森林配置計画の策定手順

○地域検討会への参画

市町村においては、森林配置計画の策定にあたり、林業・木材産業関係者などで構成される地域検討会を開催し意見聴取し検討することとされており、岐阜市、山県市、本巣市においては、既存の市町村森林管理委員会の中で検討が行われました。各務原市においては、新たに地域検討会を設置し検討が行われました。

平成29年度には岐阜市で２回、各務原市で３回、山県市で３回、本巣市で２回の地域検討会が開催されました。

▲地域検討会（岐阜市）

地域検討会では、森林配置計画策定にあたっての背景、取組方針、基本的な考え方、計画案についての

説明等の支援を行いました。また、地域検討会後は、市担当者と課題を整理するとともに、市独自基準の設定等を検討するためのデータの提供や助言等を行いました。

○現地調査

県の森林配置計画案と林業事業体の意向と相違がある林班について、事業者と市の担当者と一緒に現地を調査し、ゾーニングの検討を行いました。

▲現地調査（本巣市）

○森林配置計画の策定

岐阜市、各務原市においては、平成29年度の地域検討会で将来目標区分の設定について合意が得られ森林配置計画が策定されました。山県市、本巣市においては、「生活保全林」等の設定については地域検討会で合意が得られましたが、「木材生産林」と「環境保全林」の設定については、平成30年度以降も引き続き検討し設定することとなりました。

再造林の取組み

○主伐・再造林プロジェクト

岐阜県では、民有林人工林の齢級構成の平準化を図るため、主伐・再造林による若返りを推進しており、県内各地で主伐・再造林実証プロジェクトに取り組んでいます。

岐阜地域では、山県市神崎地内の伐採跡地（3ヘクタール）における再造林（低コスト植栽）の実証を行いました。平成28年度に生分解性ポット苗のスギ、ヒノキと裸苗の広葉樹の低密度（ヘクタール当たり1500本）による植栽を行いました。また、スギ、ヒノキの一部には獣害対策としてくわんたい（幼齢樹保護ネット）を設置しました。

平成29年11月に森林研究所、事業実施者とともに現地調査を行いました。その結果、くわんたいを設置したスギ、ヒノキはシカによる食害はありませんでしたが、設置していないスギ、ヒノキの大部分がシカによる食害を受けていました。また、植栽した広葉樹の一部が枯死または流出していました。調査結果を今後の再造林の参考とするとともに、平成30年度も引き続き現地調査を行い、対策等を検討していくことにしています。

▲くわんたい（幼齢樹保護ネット）

○欧州製獣害防止用資材の現地検討

主伐跡地の確実な更新を図るためには、植栽木のシカの食害防止の対策が必要です。岐阜県では獣害防止対策の一つであるツリーシェルターの設置を検討するため、平成28年度に森林技術開発・普及コンソーシアムの事業により山県市椿地内と本巣市根尾地内で欧州製獣害防止用資材（Tubex資材）の試験施工（5種類）を行いました。平成29年度に森林研究所とともに現地調査を行い、試験施工の中で一定の効果が認められた資材について、平成30年度から県全域で試験施工を行うこととなりました。

岐阜地域においては、林業事業体の協力を得て1000本の設置を行いました。設置時には、現場に出向いて設置方法の助言等を行い、設置後は、植栽木の生育状況（樹高、根元径）を調査しました。

今後も経過観察を行い、本格的な導入に向けて検証を行っていきます。

▲ Tubex 施工地

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 058-214-7409
岐阜農林事務所まで

国有林の現場から 23

県と国有林との連携について

林野庁中部森林管理局森林技術・支援センター

森林技術・支援センターでは、岐阜県森林研究所や岐阜県立森林文化アカデミーと連携した試験研究等を実施していますので、その内容を紹介します。

岐阜県森林研究所との連携

○優良コンテナ苗の開発・普及

森林研究所が平成二十六年度から新規に重点研究として実施する「低コスト再造林のための育苗・植栽・初期保育技術の開発」について、フィールドの提供や調査等の協力を行い、得られた研究成果を国有林にて事業規模で実証することとしています。

試験地は、各地域の特色を踏まえ多・寡雪別、急・緩傾斜別、ササの有無別など、飛騨森林管理署管内一箇所、岐阜森林管理署管内五箇所、東濃森林管理署管内二箇所の計八箇所にて五年間に順次設置して来ました。森林研究所による、育苗履歴の異なるヒノキコンテナ苗の植栽後の成長比較については、全国でも研究例が少なく、低コスト施業に欠くことのできない優良なヒノキコンテナ苗の開発に期待が高まっていることから、今後更に連携を深めて優良ヒノキコンテナ苗の開発・普及に努めて行くこととしています。

▲恵那市明智国有林コンテナ苗試験地の植栽（H 30.4）

○複層林の下層植生調査

下呂市小川長洞国有林には、非皆伐施業による公益的機能維持と木材生産を両立する常時二段林の複層林があります。点状で仕立てられた複層林は理想的な施業に思われますが、下木は上木の被圧を受け生育不良となることや上木の伐採時に下木の損傷が避けられないことが欠点でもあります。更に地表に光が届かないことから下層植生が衰退し、露出した表土が流出する懸念もあります。当センターでは下木の本数を調整することでその成長を促すと共に地表の植生回復を目的に継続して調査を行っています。植生調査は、森林研究所と協働で行い、特に広葉樹の当年実生は樹種の同定が難しいことから植物図鑑を片手に調査を進めています。今後は調査データを蓄積し、複層林施業体系化の一助になればと考えています。

▲下層植生調査（H 30.6）

岐阜県立森林文化アカデミーとの連携

○長伐期施業における森林管理技術の開発

森林文化アカデミーと協同研究により長伐期施業における樹冠長率を指標とした森林管理技術について調査を行ってきました。その結果、大径材を仕立てるためには十分な樹冠長及び樹冠幅が必要という結果を得ました。更に高齢級ヒノキ人工林の成長量を正確に把握するため、元玉の末口上部の円盤と梢端から二メートル地点の円盤を採取し、その年輪幅を読み取り、樹齢百年を超えてからのヒノキの成長量を調査しています。現在の国有林における林分収穫予想表では七十五年までが現実林分の数値で、以降は想定値になっています。特に樹高については想定値が抑えられていて、実際に調査を進めていく中で、百年を経過したヒノキの樹高は収穫予想表の値を超えて成長しています。今後更に資料を収集し、高齢級に対応した収穫予想表が作成され、長伐期施業体系が確立するよう取り組みを進めていくこととしています。

▲高山市鈍引沢国有林にて樹幹解析用の円盤採取（H 29.10）

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 050-3160-6095
森林技術・支援センター　三村まで

魚つき保安林の指定

■ 今年度の指定箇所

今年度は、7月22日（日）の「ＧＩＡＨＳ鮎の日」に合わせて、以下のとおり魚つき保安林を指定しました。

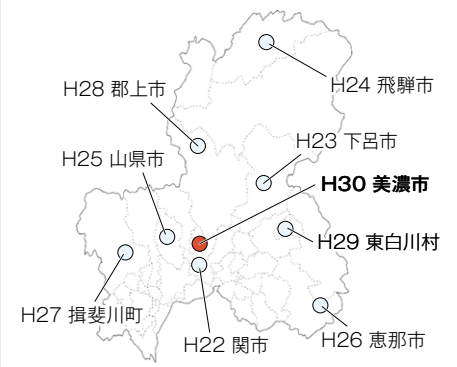
- 場所：美濃市字小倉山地内
- 流域名：長良川流域
- 指定面積：1.08ヘクタール
- 主な生息魚：アユ、アマゴ、ウグイ
- 主な植生：アカマツ、ツブラジイ、アラカシ

■ 岐阜県における指定状況

県では、平成22年に全国豊かな海づくり大会の御放流場対岸の森林4.53ヘクタールを、県内初の魚つき保安林に指定したのを皮切りに、今年度の指定を含め現在までに9箇所において魚つき保安林を指定しています。

■ 魚つき保安林とは

魚が生息しやすい環境をつくるため、指定地内の樹木の伐採を制限することにより、水生昆虫類の餌となる落ち葉などの供給や、樹木や下草が地表を覆うことによる水質の濁り防止、さらには水面へ木陰をつくり水温の上昇を抑制するなどの効果を期待するものです。



▲魚つき保安林指定位置図

▲魚つき保安林指定地（長良川左岸）

【治山課　横山　誠】

森林・林業関係イベントカレンダー（8～9月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等	開催場所 問い合わせ先
8月23日㈭～ 8月24日㈮	**木材加工用機械作業主任者技能講習**	●講習時間：23日～24日 8:30～17:40 ●申　込：開催日の20日前まで ●受講料：17,280円（本代含む）（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	岐阜県森連飛騨林産物共販所（高山市新宮町112-7） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
9月5日㈬	**刈払機取扱作業者安全衛生教育**	●講習時間：学科　9:20～15:30 実技　15:30～16:30 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：11,340円(本代含む)（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	南ひだ森林組合会議室（下呂市乗政25-1） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
9月6日㈭～ 9月7日㈮	**伐木･チェーンソー作業従事者特別教育**	●講習時間：6日　学科　8:30～17:40 7日　実技　8:30～17:30 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：18,900円(本代含む)（振込み） ●定　員：30名（定員になり次第締め切ります。）	6日　学科　南ひだ森林組合会議室（下呂市乗政25-1） 7日　実技　南ひだ森林組合土場（下呂市乗政25-1） 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195

COLUMN

コラム

自宅から職場まで近いこともあり、自転車で通勤しています。毎日ほぼ同じルートで通勤していたのですが、最近はあえて遠回りをすることが習慣になっています。たまたま本屋で手に取った本に、毎日同じ作業を繰り返していると脳の老化が早まると書いてあったので、これはいけない、何か少しでも普段のルーティーンを崩してみようと考えたのがきっかけです。

いつものルートより早く曲がったり、通り過ぎたりして、「こんなところに喫茶店がある、今度来てみよう」、「この辺りは石垣を組んでいる家が多いな。水害対策かな」等々、思いを巡らせています。

当然のことですが、普段通らないような小道にも人の営みが有り、少し大袈裟ですが、違った世界を見たような気がして気分転換にもなっています。田舎育ちなので広い大通りより、狭い小道の方が性に合っているだけなのかもしれませんが。

「森林のたより」編集委員　中野　大佑

イベント情報　9月1日発行

連載
- 山の歳時記（157）
- 山のおじゃまむし（326）

地域の人

清流と森と親しむ
- 森林と人を活かす知恵（69）

木と親しむ
- 岐阜県の公共木造建築（67）

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政（21）

森林・林業技術
- 研究・普及コーナー

市況情報　その他

9月号予定

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎥当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1662回 岐阜共販所 7月3日	すぎ	3m	16～18cm	12,500	―	単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格
		4m	16～18cm	11,700	―	
			20～22cm	13,800	―	
			24～28cm	12,500	20,000	
			30cm以上	12,000	23,000	
		6m	16～18cm	13,000	―	
	ひのき	3m	16～18cm	17,200	―	
			20cm以上	15,300	―	
		4m	16～22cm	17,500	―	
			24～28cm	14,500	―	
			30cm以上	14,500	70,000	
		6m	16～18cm	22,500	―	
第1238回 飛騨共販所 7月4日	すぎ	3m	16～18cm	12,000	―	
		4m	24～28cm	12,000	―	
			30cm以上	11,000	14,500	
	ひのき	3m	16～18cm	16,500	―	
		4m	20～22cm	14,000	―	
			24～28cm	14,000	―	
			30cm以上	16,000	50,000	
		6m	16～20cm	23,000	―	
	まつ	4m	24～28cm	9,000	―	
			30cm以上	9,000	―	
	ひめこ	4m	24～28cm	12,000	―	
			30cm以上	13,000	―	
		5m	30cm以上	―	―	
	くり	4m	24cm以上	19,000	―	
第1570回 東濃共販所 7月5日	すぎ	3m	16～20cm	12,700	13,400	
		4m	22～28cm	13,100	21,000	
			30cm以上元	13,500	27,000	
	ひのき	3m	16～20cm	17,500	34,000	
			22～28cm	14,900	33,000	
			30cm以上元	19,500	41,000	
		4m	13cm以下	9,000	―	
			22～28cm	15,500	33,000	
			30cm以上元	20,300	51,000	
		6m	18～20cm	27,600	―	
	まつ	4m	22～28cm梁	7,500	―	
			30cm以上元	10,000	―	

木材市場

全般的に横ばいで推移

【商況】

豪雨による品薄感から、スギ･ヒノキ良材の引き合いは強い。樹皮の剥離した良材、構造材向け丸太は売りづらい。スギ並材太物(50cm上～)3m需要あり、ヒノキ2m元曲がりは売りづらい。合板向けスギ･ヒノキと製紙パルプ向け広葉樹原木は、納材規格変更となっております。予定される方は共販所担当者まで、一報ください。製紙パルプ向け針葉樹、岐阜共販所トラックスケール(関市倉知地内)も受付しています。(岐阜)

ヒノキ二番玉中目材は荷動きも少なく、弱含み。スギ太物4m欠陥材は売りづらい。広葉樹は、ホウ トチ ウダイが弱い(良材は除く)広葉樹が入荷が薄い状態。虫害が発生する季節となり、伐採後速やかに搬出をお願いします。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m･3m･4m･6mは、応札多く横ばい。ヒノキ並材は3m･4m(16～28cm)横ばい、6m(16～20cm)価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札多くやや高値、二番玉並材は3m･4m(16～28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(東濃)

製品卸売標準価格(6月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm) 長	巾	高	等級	m³当り価格	(本(枚)単価)	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃桧)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
Wウッド集成材	柱	3000	105	105	国産5層	60,000	(1,980)	→
		3000	120	120	国産5層	61,000	(2,600)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場　全てKD材)

外材市況(6月期)

1㎥当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	317	米栂	ヘム(アラスカ産)	299
	コースト(目荒)	324	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

木材用語一口メモ

ZEH(ゼッチ)

Net Zero Energy House(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の略。住宅の断熱性・省エネ性能を上げるとともに、太陽光発電等によってエネルギーを創り、年間に消費するエネルギー量の収支をゼロとする住宅。